

## 第三者評価結果の公表事項（児童養護施設）

### ① 三者評価機関名

社会福祉法人 福島県社会福祉協議会

### ② 施設名等

名称：堀川愛生園 (社会福祉法人 堀川愛生園)	種別：児童養護施設
施設長氏名：伊藤 信彦	定員： 40名
所在地：東白川郡棚倉町大字棚倉字丸内 94	TEL：0247-33-2739

### ③ 実施調査日

平成26年1月21日（火）・3月8日（土）

### ④ 総評

#### ◇特に評価が高い点

##### 【子ども一人ひとりを大切にするケア】

「子どもは本来家庭で育つべきである」という法人の運営理念に基づき、より家庭に近い生活環境を目指し、以前より小舎制によるケアや地域におけるグループホーム運営を実施してきた。職員は子ども達の身近な大人としてより親密な信頼関係を築くことが出来るよう努めており、一人ひとりの個性の違いを理解し、子どもの意向を尊重しつつ子どもの持つ能力を引き出す養育・支援を心がけている。

##### 【職員間の連携】

職員が基本的に住み込みで勤務していることから、職員間の繋がりが非常に強く、連携が密に行われている。職員同士はもちろん、園長・副園長とも常日頃から様々な事柄を相談し合える体制が整えられており、問題を職員一人で抱え込むことなく、職員間・職種間の連携による適切なフォローが行われている。

##### 【養育・支援に関する職員の意識の高さ】

CSP（コモンセンスペアレンティング）を養育・支援の基本として、力に頼らずに問題を解決する手法を全国的に先駆けて取り入れて実践している。常により良いケアとは何かを考え、内部研修の実施や外部研修の受講を積極的に進めており、その中で形成された養育・支援の基本となる考え方や手法が園長から新任職員まで徹底されている。

##### ※コモンセンスペアレンティング：

アメリカの児童福祉団体（ボーイズタウン）のプログラムをもとに、日本の児童養

護施設「神戸少年の町」で開発された被虐待児のペアレンティングトレーニング（親訓練）プログラム。行動療法の理論背景をもとに、子どもの問題行動に対し暴力や暴言を使わず教育的に対処できる技術を身につけることで、虐待の予防や回復を目指す。

◇改善が求められる点

【マニュアルや書類の整備】

CSPに基づく養育・支援が徹底され、また勤務年数が長い職員が多く職員の連携も密に行われていることから、日常のケアのあり方が自然と職員間で伝達されている。しかし、職員が自身のケアを振り返ったり新人職員への指導を統一したりするためにもマニュアルの整備は必要である。基本的なマニュアルは整備されているが、苦情対応や子どものプライバシー保護に関して、その対応方法も含めたより詳細なマニュアルを整備して欲しい。

【施設が持つ専門的機能の地域への還元】

昨今、社会福祉法人には地域への社会貢献や開かれた施設としてのあり方が求められている。今後、改築を機に設けられたホールへの開放といったハード面のみならず、高い援助技術を持つ職員の能力を活かし、地域の子育て支援の核となる役割を担うことを期待したい。

④ 三者評価結果に対する施設のコメント

初めての第三者評価の受審で、準備から様々な大変さはありませんでしたが、結果としてみれば、わたしたちが大切にしてきたものを高く評価していただきました。また同時に、わたしたちが気づかなかった点にも多くの示唆をいただきました。この結果を真摯に受け止め、施設で生活する子どもたちのために、職員一同さらに向上心を持って取り組んでいきたいと思えます。また、改善を求められた点について、特にマニュアルや書類の整備については、今年度の重点課題として取り組んでいきたいと思えます。地域貢献についても、地域に開かれた施設となるように積極的な展開を目指していきます。

評価の中で指摘された、中・長期計画の策定については、平成26年度より理事会との連携の中で作業を進めていきます。

⑥ 第三者評価結果（別紙）

## 第三者評価結果（児童養護施設）

### 1 養育・支援

(1) 養育・支援の基本	第三者評価結果
① 子どもの存在そのものを認め、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止め、子どもを理解している。	a
② 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	a
③ 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a
④ 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
⑤ 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)  《特に評価が高い点》  養育・支援の基本として、児童指導効果測定表やスキルプログラムを活用しながら一人ひとりの支援計画を策定し、職員への指導も統一されている。  改築により施設の敷地内で遊ぶスペースが減ったが、外で体を動かす機会を減らすことがないよう地域や学校と連携し、子どもたちの遊び場を確保している。各ホームにおいて生活する上での様々な話し合いが行われる「ホーム会」が機能しており、子ども達の要望や改善点などの把握が行われている。</p>	

(2) 食生活	第三者評価結果
① 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	a
② 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a
③ 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	a
(3) 衣生活	
① 衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを提供している。	a
② 子どもの衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
(4) 住生活	
① 居室等施設全体がきれいに整美されている。	a
② 子ども一人一人の居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)  《特に評価が高い点》  食生活、衣生活、住生活など様々な生活場面に関するマニュアルが整備され、施設における基本生活が明示されている。家庭的な団欒を経験できるよう小舎制によるケアを長年実施しており、担当職員と子どもたちのコミュニケーションが十分図られている。特に、ホーム毎に食事作りから片づけを行うため、子どもの年齢・能力、興味に応じた手伝いが出来るようになっており、自立支援の面からも効果的である。</p>	

(5) 健康と安全	第三者評価結果
-----------	---------

① 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	a
② 医療機関と連携して一人一人の子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	a
<b>（６） 性に関する教育</b>	
① 子どもの年齢・発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
<p>（特に評価が高い点、改善が求められる点）  《特に評価が高い点》  子ども達の健康と安全に配慮された各種マニュアルに基づき医療機関との連携を十分にしている。また、生活習慣に必要なうがい・手洗いの習慣、寝具の清潔、身だしなみなど、発達に応じて自ら行われるよう支援を行っている。</p> <p>《改善が求められる点》  性に関する知識・興味は個々で異なるが、子ども達に正しい知識を持ってもらうことは集団で生活する上で重要なことであり、性に関する教育カリキュラムの作成と職員研修を実施して頂きたい。</p>	

<b>（７） 自己領域の確保</b>	第三者評価結果
① でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	a
② 成長の記録（アルバム）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	b
<b>（８） 主体性、自律性を尊重した日常生活</b>	
① 日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちの問題として主体的に考えるよう支援している	a
② 主体的に余暇を過ごすことができるよう支援している。	a
③ 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	b
<p>（特に評価が高い点、改善が求められる点）  《特に評価が高い点》  個人の所有とされる衣類、日用品などは好みに応じて購入できるよう配慮がなされている。余暇の過ごし方や行事の内容など、生活のあり方について子どもたちが自分たちの問題として取り組めるよう、ホーム会や日々職員と接している中で意見を出しやすい体制となっている。</p> <p>《改善が求められる点》  行事毎に撮影した写真など、成長の記録を可能な限り子どもと共に整理することで、子どもの思いを知る機会としていただきたい。また、金銭感覚や経済観念が育つように高学年の児童に対し、生活に必要な諸費用を学ぶプログラムを整備していただきたい。</p>	

<b>（９） 学習・進学支援、進路支援等</b>	第三者評価結果
① 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b
② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
③ 職場実習や職場体験等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
<p>（特に評価が高い点、改善が求められる点）  《特に評価が高い点》  以前より公文式学習を取り入れることで、勉強する習慣を身につけ、基礎学力が向上するよう支援を行っている。進路選択の際は子どもと十分に話し合いを行い、学校関係者、</p>	

児童相談所、医療機関とも連携しながら最善の利益が図られるよう支援している。子どもの発達状況に応じて、就労移行支援事業所など適切な福祉サービス利用に繋げることもある。

《改善が求められる点》

長年棚倉町において地域に根付いた施設運営を行っていることから、地元商店などの協力を得ながら子ども達が必要な職場体験・職場実習が出来るように配慮していただきたい。

(10) 行動上の問題及び問題状況への対応	第三者評価結果
① 子どもが暴力・不適応行動などの問題行動をとった場合に、行動上の問題及び問題状況に適切に対応している。	a
② 施設内で子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
③ 虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保されるよう努めている。	a
(11) 心理的ケア	
① 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)  《特に評価が高い点》  施設内における子ども同士によるいじめ問題が発生しないよう、担当職員は自らが模範となるように言葉遣いや行動に注意をしている。常勤と非常勤の2名の臨床心理士が勤務しているため、心理的ケアを行う上で子どもたちとの関係性を整えながら個別心理療法による支援が行われており、日常の養育・支援にも活かされるよう職員間の連携が図られている。</p> <p>《改善が求められる点》  いじめ問題に関しては、どれだけ気をつけていても起こりうることを踏まえ、更なる注意喚起に取り組んでいただきたい。</p>	

(12) 養育の継続性とアフターケア	第三者評価結果
① 措置変更又は受入れに当たり継続性に配慮した対応を行っている。	b
② 家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰後の支援を行っている。	a
③ できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	a
④ 子どもが安定した社会生活を送ることができるよう退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)  《特に評価が高い点》  多感な時期の子どもにとって環境の変化は大きな影響を与えるが、児童相談所など関係機関と連携し、継続性に配慮した支援を行っている。退所後の児童に対してはファミリーソーシャルワーカーや園長、副園長が中心となって電話相談などに応じ、場合によっては相談窓口の紹介を行っている。</p> <p>《改善が求められる点》  退所した児童から相談があった際は丁寧に対応しているが、心配されるケースには施設側から連絡を取ったり、必要な関係機関に施設から連絡を入れるなど、積極的に働きかける姿勢を求めたい。</p>	

## 2 家族への支援

(1) 家族とのつながり	第三者評価結果
① 児童相談所や家族の住む市町村と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。	a
② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。	b
(2) 家族に対する支援	
① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>《特に評価が高い点》  児童相談所と連携しながら保護者に対して CSP を実施するなど、家族の再構築を支援するため新たな取り組みを始めている。子どもの一時帰宅や面会があった場合は、周囲の他の子どもも含め、担当職員がその後の様子を見守るよう努めている。</p> <p>《改善が求められる点》  CSP トレーナーの資格を持つ職員が複数いるなど施設の高い専門性を活かし、問題を生じている保護者に対する支援を積極的に行ってほしい。その際には、施設内に新たに設けられた家庭支援棟をぜひ活用されたい。</p>	

### 3 自立支援計画、記録

(1) アセスメントの実施と自立支援計画の策定	第三者評価結果
① 子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	a
② アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	a
③ 自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	b
(2) 子どもの養育・支援に関する適切な記録	
① 子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。	a
② 子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	b
③ 子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>《特に評価が高い点》  自立支援計画の策定前に児童指導効果測定表を用いて子どもの状況を数値化し、目に見える形で課題を把握している。その後一人ひとりの自立支援計画策定にあたっては、職員全員が参画し協議を行う場を設けているため、必要な情報を共有することが出来ている。</p> <p>《改善が求められる点》  自立支援計画の策定方法、評価方法、見直し時期など一連の流れについて、職員がいつでも確認することが出来るよう手順書を策定することが望まれる。また、退所児童から情報開示を求められることを想定し、個人情報保護に関する詳細な規程や文書管理規程等を整備し、職員に周知していただきたい。</p>	

### 4 権利擁護

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者評価結果
① 子どもを尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。	a

② 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	a
③ 子どもの発達に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	a
④ 子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。	b
⑤ 子どもや保護者の思想や信教の自由を保障している。	a
<b>(2) 子どもの意向への配慮</b>	
① 子どもの意向を把握する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。	b
② 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組む。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>《特に評価が高い点》</p> <p>法人の理念やケアの基本となっている CSP に基づき、職員一人ひとりが子どもの最善の利益を考えたケアを行っている。ホーム会や高校生会などで子どもの意向を把握するとともに、日常生活の中のふとした瞬間に出てくる小さな声（意見）を聞き逃さないよう心がけている。</p> <p>《改善が求められる点》</p> <p>本園では家庭的な環境を目指して長年小舎制によるケアを行っており、更に改築により個室化が進んだため子どものプライバシー空間は保たれているが、それでも他人同士が共同で生活する中で多少の軋轢が生じることはやむを得ない。プライバシーを尊重するための規程は整備されているが、生活場面ごとのより詳細なプライバシーに関するマニュアルが整備されることが望ましい。</p>	

<b>(3) 入所時の説明等</b>	第三者評価結果
① 子どもや保護者等に対して、養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。	b
② 入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
③ 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	b
<b>(4) 権利についての説明</b>	
① 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b
<b>(5) 子どもが意見や苦情を述べやすい環境</b>	
① 子どもが相談したり意見を述べたりしたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。	b
② 苦情解決の仕組みを確立し、子どもや保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	b
③ 子ども等からの意見や苦情等に対する対応マニュアルを整備し、迅速に対応している。	c
<b>(6) 被措置児童等虐待対応</b>	
① いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a
② 子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
③ 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b

(7) 他者の尊重	
① 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかひや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)  《特に評価が高い点》  入所時の子どもの不安が少しでも減らせるよう、事前にパンフレット等を用いて施設で生活する上での約束事やルールなど詳しい説明を行っている。また、CSPの徹底により、子どもの人格を尊重し、いかなる場合も体罰によらない養育支援を行うよう努めている。職員が互いに心身の状況を気遣っていることが、子どもへの不適切な関わり防止にも繋がっている。</p> <p>《改善が求められる点》  ホーム会や高校生会など大勢での意見交換の場で意見を言いにくい子どものために意見箱が設けられているが、投書用紙を職員からもらうこととなっていることから、匿名で意見を出せる手段を確保して子どもに明らかにしておくことが望ましい。また、子どもから苦情(意見)が出た場合の対応について職員間で差が生じることが無いようマニュアルを整備が必要である。  なお、被措置児童虐待防止のマニュアルが整備されているが、職員に周知・徹底されるよう努めて欲しい。</p>	

## 5 事故防止と安全対策

	第三者評価結果
① 事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	a
② 災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	a
③ 子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)  《特に評価が高い点》  子ども達の安心・安全を守るため、交通事故、園内における事故、自然災害、衛生管理など、事故防止に関する各種マニュアルが多方面に渡り整備され、職員に周知されている。</p> <p>《改善が求められる点》  近年、裁判所による所謂「28条ケース」が増えていることから施設にもその対応が求められている。本園では不審者対応や強引な引き取りに対するマニュアルは整備されているが、避難訓練と同様、不審者対応訓練などを定期的に行うことが望ましい。</p>	

## 6 関係機関連携・地域支援

(1) 関係機関等の連携	第三者評価結果
① 施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	a
② 児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	a
③ 幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校など子どもが通う学校と連携を密にしている。	a
(2) 地域との交流	
① 子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。	b

② 施設が有する機能を地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	b
③ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	a
<b>(3) 地域支援</b>	
① 地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	b
② 地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)  《特に評価が高い点》  子どもの養育・支援にあたっては関係機関との連携が欠かせないが、児童相談所や学校関係者との信頼関係が築かれており、特に小・中学校とは毎日情報交換を行っている。また、病院のMSWの申し出により児童相談所を始めとした関係者のケース検討会を開催するなど、新たな連携作りにも積極的に取り組んでいる。</p> <p>《改善が求められる点》  長年棚倉町で施設を運営しており、地域に理解され見守られる施設となっている。社会福祉法人の社会貢献という点からも、施設職員の高いスキルを生かした地域の子育て支援や、改築により新たに出来たホールを地域に開放するなど、ソフト面・ハード面の両面から地域に還元する取り組みを行ってほしい。</p>	

## 7 職員の資質向上

	第三者評価結果
① 組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	a
② 職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	b
③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	b
④ スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上を支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)  《特に評価が高い点》  園の年度事業計画において職員研修の基本的視点、研修毎の目的などが示されている。職員が自主的に受講した研修も復命され、良い研修は次年度以降の園全体の研修計画に組み入れるなど、積極的に研修受講を行っている。また、職員同士の繋がりが密接であり、常日頃職員間でケアを始め様々な課題について話し合いが行われ、園長や副園長への相談もしやすい体制となっている。今年度からホーム毎のチーム体制にスーパーバイザーが加わり、より相談体制が強化された。</p> <p>《改善が求められる点》  園全体の職場研修計画は策定されているが、個々の職員の研修計画策定までには至っていない。キャリアパスの観点からも階層別に求められる職員像を明らかにし、毎年職員毎の研修目標と計画を策定・実施し、評価まで行うことが望ましい。</p>	

## 8 施設の運営

<b>(1) 運営理念、基本方針の確立と周知</b>	第三者評価結果
① 法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。	b
② 法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化	b

	されている。	
③	運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
④	運営理念や基本方針を子どもや保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
<b>(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定</b>		
①	施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	b
②	各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	b
③	事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	a
④	事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	a
⑤	事業計画を子ども等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)  《特に評価が高い点》  事業計画は、全職員が参画し時間をかけて協議しながら策定されている。単なる行事の実施計画にとどまらず、園全体、ホーム毎、事業毎に具体的な目標が示され、その年度の基本マニュアルとでも言うべき内容となっている。事業報告も同様に全職員参画のもと作成されており、策定過程の協議を通して職員は内容を十分把握することができる。</p> <p>《改善が求められる点》  中・長期的な計画は管理職だけが把握しているものとなっており、明文化されているとは言い難い。園の改築が一段落したことから、今後の園の体制や人員配置など、具体的なか・長期計画の策定を職員が参画しながら行ってほしい。</p>		

<b>(3) 施設長の責任とリーダーシップ</b>		第三者評価結果
①	施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。	a
②	施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。	a
③	施設長は、養育・支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。	a
④	施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。	a
<b>(4) 経営状況の把握</b>		
①	施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。	b
②	運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。	b
③	外部監査（外部の専門家による監査）を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)  《特に評価が高い点》  家庭に代わる環境の中で子ども達が安心・安全な生活を送ることが出来るよう、園長はCSPプログラムを受講し子ども達の養育支援に積極的に関わっている。職員が心身ともにベストな状態で働くことが子ども達にとって良いケアに繋がることから、常日頃から職員の相談を受けたり、園全体を見通して課題があるところを支援するよう心がけるなど、職員が働きやすい環境作りに注力している。</p>		

《改善が求められる点》  
 施設の事業規模から言えば社会福祉法人審査基準による外部監査は必ずしも必要とされていないが、法人運営の透明性確保や中・長期的計画の参考のため、数年に1度は専門家による外部監査を受けることを検討されたい。

(5) 人事管理の体制整備	第三者評価結果
① 施設が目標とする養育・支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。	b
② 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。	b
③ 職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。	b
④ 職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。	a
(6) 実習生の受入れ	
① 実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)          《特に評価が高い点》          昇給・昇格等に関わるいわゆる「人事考課」は行われていないが、職員の自己評価や事業毎の振返りが実施されており、次年度の研修計画や事業計画等に反映されている。職員間の連携・フォローも手厚く行われており、急な休みや研修や旅行のための長期休みにも十分対応できている。</p> <p>《改善が求められる点》          実習生の受け入れは、施設にとって外部からの視点や評価を知る機会であるとともに、自らの考え方を外に発信する機会でもある。そのため、実習生が施設をよく理解して実りある体験ができるよう、学校側と十分協議して実習プログラム作りを行ってほしい。</p>	

(7) 標準的な実施方法の確立	第三者評価結果
① 養育・支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。	a
② 標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを施設全体で実施できるよう仕組みを定め、検証・見直しを行っている。	a
(8) 評価と改善の取組	
① 施設運営や養育・支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。	b
② 評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)          《特に評価が高い点》          CSPプログラムに基づく養育・支援が園全体に徹底されており、また全職員が参画し策定される事業計画がマニュアルの役割も果たしていることから、職員が高い共通意識を持って子ども達のケアに当たることが出来ている。</p> <p>《改善が求められる点》          今回初めて第三者評価を受審したことから、今後は毎年の自己評価、3年に1度の第三者評価を適切に行い、明らかになった課題の改善に向けて真摯に取り組んでほしい。</p>	